

水俣病をめぐる人権

水俣 未来へのまちづくり

水俣の人々は「宝の海、命の海」の恵みを受けて生活していました。そこへ、大きな工場ができ、町に活気があふれました。ところが、ある日のこと「かわいいわが子がご飯をぱろぱろこぼし、まっすぐ歩けなくなつた」そうです。周りの人たちからは「奇病だ」「伝染病だ」と言われ、きょうだいは学校で誰とも遊んでもらえなくなりました。

子どもの病気は日に日に悪くなり、とうとう命を落としてしまいました。ある母親はお腹の子が元気に大きくなるようにと魚をたくさん食べました。…その魚に毒があるとも知らずに。やがて、水俣の海は「人々の体だけでなく、人々の絆」も壊してしまいました。
(広安小フェスタ 5年生発表を改作)

水俣病は、工場排水中の「メチル水銀」に汚染された魚介類をたくさん摂取したことが原因の中毐症です。ところが、「病気」の原因が不明だったころ、「病気」がうつる」と誤解され、患者の家庭には人が寄りつかなくなり、

水俣出身であるというだけで就職や結婚も断られ、水俣の物品が売れなくなるなどの差別や偏見により、地域全体を苦しめるようになりました。

水俣では、一度と公害を起す

たり意訳しますが、益城町史通史編を参考までに見てください。

偏見や差別の解消のため、どんな取り組みが行われていますか

○もやい直し

○地域の再生・融和

○環境の復元

○差別や偏見をなくすための施設

○地域の再生・融和

○環境の復元